

7 北部広域保健師事例検討会

第1回

申請者氏名（代表者） 永吉ルリ子	所属部門	人間健康学部看護学科 地域看護学領域		
企画名 北部広域保健師事例検討会				
企画の目的・概要 目的：保健師の受け持ち事例や事業等を通して、地域担当保健師が住民に対して、より良い支援ができるよう、支援の方向性を検討する。また、事例のまとめや情報交換することで、現役保健師の力量形成を図る。 進め方：①事例紹介(事例の概要、支援経過、検討事項等)・・・10分 ②事例の確認及び質疑・・・20分 ③今後の支援の方向性・・・20分 ④事例提供者及び参加者の感想・・・20分 ⑤情報交換・・・30分程度 事例提供者：①照屋光希（伊江村保健師）、②宮里裕子（伊江村保健師）、③山城直也（名護市保健師） 検討日時及び検討事例等： ①10月4日17:30～19:00 「脳性まひ患者の支援」参加者10人 ②11月26日18:00～19:30 「在宅サービスを拒否する独居の在宅酸素療養者」参加者8人 ③1月29日18:00～19:30 「衝動的な行動への対応」参加者13人				
企画実施組織				
氏名	所属・職名	現在の専門	役割分担	備考
永吉ルリ子	看護学科 教授	公衆衛生看護	企画・運営	離島保健師と市街地(名護市)保健師及び北部福祉保健所保健師の協力が得られた。
比嘉憲枝	看護学科 講師	公衆衛生看護	企画・運営	
仲本優子	看護学科 助教	公衆衛生看護	企画・運営	
松田めぐみ	看護学科 助手	公衆衛生看護	企画・運営	
企画実施報告 事例提供保健師の協力で企画通りに平成25年度は3回実施することができた。参加者は、現役保健師10人前後で、保健所保健師が過半数でした。事例提供者から、訪問支援内容・支援の経過を整理し報告することで、保健師自ら支援内容の振り返りができた。まとめる力がつき、個別の支援方法等保健師の先輩から助言が得られ、知識を得ることができた等の感想があった。参加者からは、事例検討することで、さらに、個別支援の在り方を再確認することができた。当事者との信頼性の確立や関係機関との連携方法等事例から学ばされた等の所感があった。				

個別支援活動の原点・基本の再確認ができ、今後の保健師活動の糧になったと考える。

*継続して実施している事例検討会は、名桜大学看護実践教育研究センター事業目的「看護系職員、保健医療関係職員の看護実践能力の向上」にかなったものであり、「沖縄県保健師現任教育」の一端を担っている。さらに、名桜大学看護学科PRの一助になったと捉える。

企画の実施評価

公衆衛生保健活動の原点である個別支援について、個別訪問事例を通して、支援の方向性や支援のあり方をお互いが学ぶことで、よりよい住民サービスに繋げることができる。また、事例検討したことで、個別支援について振り返ることができた。さらに、名桜大学と公衆衛生活動現場が一体となり、保健師の質向上につなげることができたと考える。

今後の取組み

名桜大学地域看護領域が、現任保健師人材育成の一助を担えるよう、次年度においても同様の事例検討会を開催する。今年度は少人数の参加であった。北部広域市町村保健師が参加しやすい時期・時間帯を調査する。

平成25年度北部広域保健師事例検討会



平成25年度北部広域事例検討会 第1回(10月4日)



平成25年度北部広域事例検討会 第2回(11月26日)



平成25年度北部広域事例検討会 第3回(1月29日)

